

相談支援つうしん

<第91号>2023年7月31日
県立湘南支援学校 支援連携グループ
相談支援班 ~教師編~

今回の相談支援通信では、行動観察によるアセスメントについて取り上げたいと思います。

皆さんは、アセスメントという言葉を知っていますでしょうか。

簡単に言うとなさね…

「つまずきの背景にある要因について仮説を立て、そこから指導・支援の手立てを考える。」こと。児童・生徒の実態を把握し、分析・見立て（仮説）をし、支援の手立てを考えることです。今回は、行動観察によるアセスメントに焦点を当て、その方法を具体的に紹介していきます。

行動観察とは？

→子どもの行動を**観察、記録、分析**し、行動の特徴や発達の状態を明らかにすることによって、実際の**指導・支援に役立てる**こと。そして、行動観察の記録を継続的に取ることによって、子どもとその取り巻く環境との相互作用もとらえることができ、行動に及ぼす環境要因の特定にも役立つ。

☆行動観察を実施する前の準備

○対象児童・生徒の情報を整理する

- ・どのような課題があるのか
- ・行動観察でどのような力を見たいか
- ・行動観察でどのような場面を見たいか



観察方法や着眼点を整理

することがポイントです！

○情報収集による実態把握

- ・子どもの実態（人格、発達、行動等）を把握する。
- ・子どもの情報を多角的に集める。
- ・情報から課題を整理する。

※しかし、情報収集だけでは解釈と事実が混ざっていることがある。

子どものつまずきの要因を把握できるとは限らない！



行動観察を通して、子どもの実態をより詳細に把握し、的確な支援の手立てにつなげる！

情報収集内容(例)

医学的な情報 身体発育、機能の状態 視機能、聴機能 病気・服薬の状況	心理学的な情報 知的発達の状態 社会性の発達の状態 運動機能の発達
生活環境における情報 生育歴 生活の様子 地域・家庭環境	教育的な情報 基本的生活習慣 学習上の配慮事項・学力 人やものとの関わり コミュニケーション等

☆行動観察のポイント①～観察～

- 一場面だけを見て、「～に違いない」と決めつけない。
- 様々な「可能性」を思い浮かべた上で、仮説を立て、それを立証するために情報を集めていく。
- 複数的人数で観察をして見立てをすり合わせる。



情報を集めて、理由や原因を分析し、見立てをする！

(例)「泣いている生徒」が目に入った→ただ「見る」✕

どのような状態？いつからいつまで？どんな環境だった？直前の状況は？結果は？

これらを意識して子どもの発言や行動を「観る」ことが大切です。

〈行動観察で特に重要となる記録〉

	記録のまとめ方の例
関連性	・～したら（～があったら）、～できた ・～しなかったら（～がなかったら）～できなかった
時系列	・時間：～の時、～だった ・事前：～の前、～だった ・途中：～をしている間（しながら）、～だった ・事後：～の後、～となった
環境	・場所：～の場所で、～だった ・もの：～があると（使うと）、～だった ・人：～がいると、～だった
達成	・達成度：～ぐらいできた、～まで達成できた ・継続度：～分間続けることができた

☆行動観察のポイント②～記録～

- 事実をありのままに捉える
- 誰もが共有できる情報を読み取り、記録する。
- (例) 落ち着きがない→解釈なので✕
- 授業中に断りなく、離席を5回以上した。
- 事実なので○

記録を正確に残すことで
様々な条件が見えてきます！

結果より、「どう変わったか」を大事に！

☆行動観察のポイント③～分析・見立て～

- 見立ての考え方
- ・～ができた、～ができなかった
- これは「見立て」ではなく、「評価」です。
- ・～したらできた、～が原因でできなかった
- ～が原因ではないか？
- 多面的な知識や詳細な観察から気付く力が必要
- 具体的な今の課題が見え、今必要な支援が分かる。
- 時系列にまとめた記録から観点別へ再整理する
(右の表を参考に)
- 行動マネジメント
- ・機能分析：行動の形ではなく、その機能に着目し、行動の理由・原因を探る。
- 注意獲得？ 要求獲得？ 拒否・逃避？ 感覚刺激？

観点	例
取組状況 参加態度 意欲 集中	活動への参加態度 (よそ見・離席等) 注目や集中の継続時間 指示の受け入れや行動の修正
理解 全体理解 個別指示 言語理解 指示理解 数的処理	授業者の説明を理解しているか 個別に言葉かけや説明が必要か 視覚的、聴覚的な情報の理解はどうか 言語指示どおりの行動だったか 全体指示を受けての行動か 周囲を見回してから行動したか
運動・操作 姿勢 身体の動き	姿勢の保持 視線の動き・手の動き
社会性 コミュニケーション	挨拶や活動中の発言 質問に対する応答、言葉遣いの適切さ

☆行動観察のポイント④～支援の手立て～

- 行動の背景・機能を考える
- 行動の背景を理解し、支援の手立てを考える。
- ・その行動を起こさないための環境設定
- ・行動が誘導されない環境設定
- ・行動を別の行動（ことば）に置換する支援
- ・行動によるネガティブな体験をなくす支援
- 意図的、段階的に支援する
- 手添え 見本の提示 ジェスチャー 言語指示



☆まとめ

行動観察はまず実態を把握することが基本。困りに気付ける敏感なアンテナと子どものありのままの姿(事実)を観ることが出来る観察力。

困難さや課題だけではなく、「良さ」や「強み」を把握し、チームで共有することが大切だと感じました。多角的な視点で情報を集め、支援につなげていくことを意識して今後に生かしていきたいと思いました。

相談カード（教員用） 記入日 令和 年 月 日

対象児童生徒 小・中・高 年 氏名（イニシャル）

1. どのようなご相談ですか？（○をつけてください）

- ①行動面について ②学習面について ③コミュニケーションについて ④運動面について
⑤家庭に関すること ⑥ その他（ ）

2. 困っていることは何ですか？

3. 今後どのような方法をご希望ですか？ ①情報提供 ②アドバイス ③ケース会 ④外部専門職との連携

- ⑤道具の工夫環境調整 ⑥その他（ ） 担任→相談支援係へ提出をお願いします。